

ねん がつ にち
2020年12月5日

だいに しゅじつ
待降節第二主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

わたしたちが^い生きて^{いま}いる^{せ かい}今の^{しゅ みち}この^{そな}世界^{みちすじ}には、「^{しゅ}主^の道^を備^ええ、^{その}道^筋を^まっすぐ^にせよ」
と^{こえ}声^をあ^げる^{そんざい}存在^{ひつよう}が^{かみ}必要^{まね}です。^{こた}神^の招^きに^{しめい}応^ええ、^{てつていてき}その^い使命^に徹^{底的}に^{そんざい}生^きる^{ひつよう}存在^が必要
です。

ぎょうこう
教^皇フランシスコは、^{し と てきかんこく}使^徒的^の勧^告「^{よろこ}喜^びに^{よろこ}喜^べ」の^{ぼうとう}冒^頭で、「^{しゅ}(主^が) わたしたち^のに^{のぞ}望^{んで}
お^られる^のは^{せい}聖^{なる}者^{もの}と^{なる}こ^とで^{あり}、^{へいぼん}平^凡で^{ふう}風^味に^{とぼ}乏^{しい}、^{あいまい}曖^昧な^{もの}に^{とど}留^ま
る^こと^では^あり^ませ^ん」と^{しる}記^して、^{かみ}神^から^の招^きで^{あり}、^{まね}聖^性の^{しゅ}道^を徹^{底的}に^い生^き抜^{こう}
と^{する}存^在が^{そんざい}不^可欠^{である}こ^とを^{してき}指^摘し^てい^ます (1)。

もちろん^{ぎょうこう}教^皇は、^{せいせい}聖^性の^{みち}道^{への}招^きは、^{まね}特^別な^{とくべつ}人^{だけ}へ^の呼^びか^けで^はな^くす^べて^のキ^リ
ス^ト者^に向^けら^れた^呼び^かけ^であ^るこ^とを^{きょうちよう}強^調さ^れま^すが、^{どうじ}同^時に「^{ぎょうかい}教^会が^{ひつよう}必要^と
す^るの^は・^まこ^のの^いの^ちを^{つた}伝^える^こと^に燃^えて^{けんしん}献^身す^る、^{あつ}熱^い宣^教者^だ (138)」
と^{しる}記^して、^{しさい}司^祭や^{しゅうどうしや}修^道者^の聖^性の^{せいせい}模^範が^も信^徒に^{しん}先^だ立^つもの^として^{じゅうよう}重^要である^こと^も指^摘
さ^れて^いま^す。

ぎょうかい
教^会は、^{せいせい}聖^性の^{みち}道^を歩^む模^範と^{なる}司^祭や^{しゅうどうしや}修^道者^を必要^として^いま^す。^{せんれいしや}洗^礼者^ヨハ^ネ
の^{よう}に、^{ゆうき}勇^気を^も持^つて^{せんとう}先^頭に^たち、^{しんこう}信^仰に^おけ^る正^論を^{せいろん}声^をあ^げて^あか^しす^る存^在を^{ひつよう}
必要^として^いま^す。

ぎょうかい
教^会は、^{がつ}12^月の^{だいいちしゅじつ}第^一主^日を^{ぎょうこうちようせんきょうえんじよ}教^皇庁^の宣^教援^助事^業・^{し と せい}使^徒聖^ペト^ロ会^が呼^びか^ける「^{せん}宣^教
地^の召^命促^進の日」と^ひ定^めて^いま^す。^{ことし}今^年は^{たいこうせつだいにしゅじつ}この^{ぜん}待^降節^第二^主日[、]全^世界^のカ^トリ^ッ
ク^教会^は、^{ぎょうかい}宣^教地^にお^ける^{せんきょうち}司^祭や^{しゅうどうしや}修^道者^の召^命に^{しさい}思^いを^{しやうめい}馳^せ、^{おも}加^えて^はそ^の養^成者^を思^い
お^こし、^いと^もに^{いの}祈^りを^ささ^げま^す。^{せんきょうち}また^{ぎょうかい}宣^教地^にお^ける^{ゆた}教^会が^{せいちよう}豊^かに^{みち}成^長す^る道^に
^{こころ}心^をよ^せ、^{しさいしよく}司^祭職^や奉^献生^活者^をめ^ざ目^指して^{ようせい}養^成を^う受^けて^いる^{しんがくせい}神^学生^や修^練者^をし^{えん}支^援す
る^ため^に献^金を^ささ^げま^す。

せんきょうち　い　にほん　きょうかい　た　おお　きょうかい　どうよう　くに
宣教地とすることでは、日本の教会もアジアの他の多くの教会と同様、その国にあつ
ては少数派ですから、宣教地の召命促進の祈りには、当然日本における召命促進も含
まれております。

しさい　しぜん　たんじょう　しょうきょうくきょうどうたい　あた　せんざい
司祭は、どこからか自然に誕生して、小教区共同体に与えられる存在ではありません
せん。教会は会社のような組織ではありませんから、毎年のように募集をして、司祭を雇用
するようなどころではありません。司祭は、自分たちの教会共同体から生み出され、育
てられ、歩みをともにする存在です。

しゅ　とつぜんおとな　せかい　しゅつげん　せいしょ　しる
主イエスは、突然大人としてこの世界に出現したのではなく、聖書に記されているとお
り、幼子として聖家族のうちに誕生し、その聖家族の絆のうちに生まれ成長してい
きました。共にいる神がそのようにしてわたしたちと関わるのですから、洗礼者ヨハネ
のように、勇気を持って先頭に立ち、信仰における正論を声を上げてあかす存在、
すなわち司祭も、同じように家族の絆、すなわち教会共同体のうちに誕生し、育ま
れ、成長する存在であります。

だいに　こうかいぎ　しさい　ようせい　かん　きょうらい　しょうめい　そだ　ぎむ
第二バチカン公会議の「司祭の養成に関する教令」は、「召命を育てる義務は、キリス
ト教共同体全体にある。この共同体はとくにキリスト教的生活を十全に生きること
によってその義務を果たさなければならない (2)」と記しています

にほん　せかいかくち　しゅ　みち　そな　みちすじ
わたしたちは、日本において、そして世界各地において、「主の道を備え、その道筋をま
つすぐにせよ」と勇気を持って率先しながら正しい声をあげる存在、すなわち司祭がひ
とりでも多く誕生するように、粘り強い祈りと犠牲をささげる心、そしてわたしたち
自身の信仰の養成を深めることによって、貢献していきたいと思ひます。